



いちご市が15分をお知らせします! —新宿アルタで「いちご時報」放映—

3月下旬に、東京都の「新宿アルタビジョン」で、いちご市PR動画「いちご時報」が放映されました。

本市では、これまででもいちごをモチーフとした動画を制作し、首都圏の映画館で放映。新作の「いちご時報」は、本市出身のタレント・筑井美佑輝さんと市内いちご農家・宇賀神さんが出演した動画が、毎時15分に流れる時報スタイルとなっています。市公式YouTubeチャンネル「かぬまちゃんねる」でも公開中です。(QRコード参照)



梅の香りに包まれゆったりと

—梅まつり—
(市花木センター)

3月7日～22日まで、市花木センター西側丘陵に広がる梅林園で、今回で第2回となる「梅まつり」が開催されました。

昨年の開催が好評だったことを受け、梅の木の補植やスイセンの植栽によりさらに華やかになった園内。日光連山を見晴らせる小高い丘には紅白約240本の梅が咲き匂い、縁台に腰を掛けゆったり春の空気を満喫する来園者たちの姿が見られました。



鹿沼の玄関口に木のぬくもりを

—森林認証材のベンチ設置—
(鹿沼市森林認証協議会)

3月に、東武日光線新鹿沼駅の待合室に森林認証材のヒノキを使用したベンチが設置されました。

これは、認証材の利用拡大や本市で産出される良質な木材を広く知ってもらうことを目的として実施されたもので、3月14日に同駅長への目録贈呈が行われました。設置されたのは、背のある3人掛け用が3基と4人掛けが3基。同認証材は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設にも使用されています。

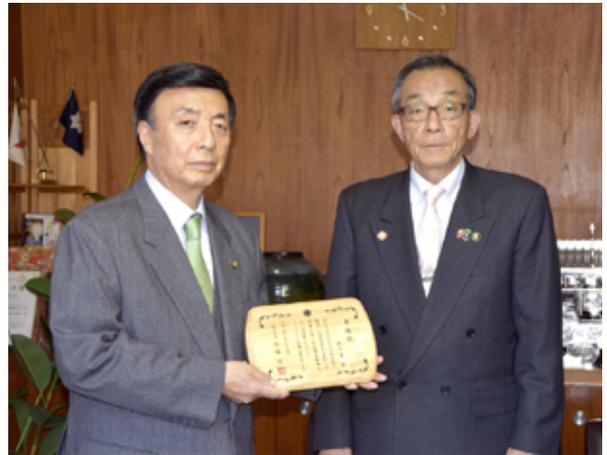


励ましの思いを込めた写真

—学校寄付で鈴木泉さんへ感謝状—

3月25日、市は、平成26年から10回にわたり学校備品の寄贈をした教育委員の鈴木泉さんに対し、感謝状を贈呈しました。

きっかけは、平成26年に市内の中学校において生徒が不慮の事故で亡くなったことを受け、励まそうと、川上澄生版画大賞の大賞作品を小中学校へ贈ったこと。その後も、国内三大公募展の1つ「二科展」入選の自らの写真作品や、災害復旧支援のための寄付金を市内小中学校に贈呈しました。鈴木さんは「今後も寄付を続けていきたい。子どもたちに写真の楽しさを知ってほしい」と語りました。



桜と夜空のコントラスト

—“美しすぎる桜並木”ライトアップ—

3月22日～4月中旬まで、さつき大通りの“美しすぎる桜並木”のライトアップが行われました。

みはらし橋から栄町2丁目交差点までの約1,300mにわたる桜並木がピンク色に染まる様子は、まさに壮観。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、メインイベントである「東部台ふれあいさくらまつり」が中止となりましたが、ライトアップ期間中は桜並木を眺めながら散歩を楽しむ人々の姿が見られました。

地元へ届ける力強いエール

—平野早矢香さんが市に寄付—

3月30日、市出身でかぬまふるさと大使でもある、元卓球選手の平野早矢香さんが、令和元年東日本台風の復旧、新型コロナウイルス対策として、市に100万円を寄付しました。

災害ボランティアにも参加したという平野さん。目の当たりにしたという被災状況を思い起こしながら、「何かのお手伝いになれば」と目録を佐藤市長へ手渡しました。また、新型コロナウイルスの影響により東京五輪が延期となったことにも触れ、「残念ですが仕方がない。健康があってこそそのスポーツです」と語りました。

